

年 月 日

東京都後期高齢者医療広域連合議会

広域連合議員

様

全日本年金者組合_____支部

支部長_____

後期高齢者医療保険料の改定について高齢者の生活を守る 立場から、広域連合議会での審議に臨んでください

物価高騰と年金の実質減、税・医療・介護の負担増が重なり、地域の高齢者の生活は、深刻な危機に直面しています。

年金は名目上わずかに増えてもマクロ経済スライドによって物価上昇に追いつかず、実質的には減っています。東京都区部の2025年12月中旬時点速報値では、生鮮食品を除く食料品が前年同月比6.2%、米は34.7%の上昇を示し、生活の困難を訴える声があがっています。

名目上の年金増で住民税非課税ラインを超え、住民税が課税に転じ、介護保険料が上がり、各種軽減が受けられなくなる“逆転現象”も広がっています。さらに、年収がわずかに基準を超えたことで医療費窓口負担が1割から2割に増えた高齢者も多数います。医療を必要とする高齢者ほど負担が重くなることは、社会保障の理念に反します。

こうした中で、広域連合が11月に示した2026・2027年度の保険料算定案（均等割52,400円、所得割率9.85%、平均保険料123,827円・年金収入153万円以下の単身者でも10.6%（1,500円）の引き上げ）は、高齢者の生活に追い打ちをかけるものです。

高齢者が安心して暮らし、必要な医療をためらわずに受けられる社会を守るため、以下のような立場で後期高齢者医療広域連合議会に臨んでいただくよう要請致します。

- 1 2026・2027年度の後期高齢者医療保険料引き上げを回避すること。
- 2 物価高騰で苦しむ低所得高齢者の保険料負担を軽減すること。
- 3 高齢者の生活を守る立場で、広域連合議会での審議に臨むこと。

意見・要望